



詳しい天気は8面に

350年前の桐生新町、ふた裏に御縄奉行の名



町立て間もないころの桐生新町で使用されていたと思われる御用箱と、安政年間の桐生新町が寄場村であったことを示す書状

威光で文書を守った時代

いまから350年前の桐生新町で支配者が公文書を下達する際に使用したと思われる御用箱が現存していた。箱のふたに「御用」、底裏に「桐生新町」の墨書きがあり、ふたの内側に「寛文九年(1669年)己酉二月 御縄奉行諸星傳左衛門」と書かれた紙が貼り付けてあった。傳左衛門は天領時代の桐生新町で代官を務め、寛文9年己酉3月に境野村の検地を担当したことがわかっている。町立て初期の桐生新町で江戸に住む支配者と人々をつなぐ公文書が「御用」の威光で守られていた様子がかがえる史料だ。(4面に関連記事)

「街かど歴史資料室」赤石幸夫さんが入手

「御用箱」見つかる

御用箱はきり製で大きさは縦37センチ、横15.5センチ、厚さ5.5センチと比較的浅めの作りであり、身部にふたを結び留めるひもがあることや「桐生新町」の墨書きからみて「桐生新町」からみて「桐生新町」縮出役が桐生新町の名主に対し、寄場の牢ろう)に入れられた鳥山村無宿人の所持品一切を滞りなく引き渡すようにと命じた通達である。

校名は市議会での市立学校設置条例の改正を経て正式に決まるため、それまでは仮称として扱われる。

5案中6割の支持
最終5案への投票結果は次の通り。
①笠懸西(583票、60.6%) ②笠懸みらい(184票、19.13%) ③笠懸若葉(89票、9.25%) ④笠懸令和(85票、8.84%) ⑤あけぼの(21票、2.18%)

2022年4月開校予定 笠懸小の分離新設校

みどり市教育委員会(石井逸雄教育長)は12日、2022年4月開校を予定している笠懸小学校の分離新設校名を「(仮称)笠懸西小学校」にすると明らかにした。同日午前開かれた市議会総務文教常任委員会(武井俊一委員長、6委員)で報告された。

みどり市教委 市議会に報告

市教委は9月6日から25日まで、笠懸小学校の児童や教職員、校区内の住民を対象に校名を公募。321件が寄せられた。その中から、笠懸小学校の関係団体代表者らで構成される地区代表者会議で10月末、「笠懸西」「笠懸みらい」「笠懸令和」「笠懸若葉」「あけぼの」の5案に絞り込んだ。11月11日から26日にかけて、公募対象と同じ人らを対象に投票を実施。その結果、公募段階の票数が5案の中で最も多かった「笠懸西」が総投票数962票の6割に当たる583票を得た。

「(仮称)笠懸西小学校」に

票の結果から、「笠懸西」が高い支持を受けていると分かった。地区代表者会議でも笠懸東小、笠懸北小とのバランスに配慮する必要があるとの理由で妥当との意見が多かった」と説明。「新設校が笠懸町の西側に建設されることから由来が分かりやすい」などとし、「笠懸西」が新校名として「適当」と報告した。